産業建設常任委員会会議録

[平成24年 2月21日開催]

南あわじ市議会

産業建設常任委員会会議録

日 時 平成24年 2月21日
午前10時00分 開会
午前11時55分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

1. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（7名）

委 員 長	砂 田 杲 洋
副 委 員 長	谷 口 博 文
委 員	出 田 裕 重
委 員	阿 部 計 一
委 員	印 部 久 信
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	長 船 吉 博
議 長	楠 和 廣

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
産業振興部長	水 田 泰 善
農業振興部長	奥 野 満 也
都市整備部長	山 田 充
下水道部長	道 上 光 明

産業振興部次長	興	津	良	祐
農業振興部次長	神	田	拓	治
都市整備部次長	山	崎	昌	広
下水道部次長	松	下		修
産業振興部商工観光課長	阿	部	員	久
産業振興部企業誘致課長	北	川	真由美	
産業振興部水産振興課長	早	川	益	弘
産業振興部農林振興課長	松	本	安	民
農業振興部農地整備課長	大	瀬		久
農業振興部地籍調査課長	和	田	昌	治
農業振興部農業共済課長	宮	崎	須	次
都市整備部管理課長	和	田	幸	三
都市整備部建設課長	赤	松	啓	二
都市整備部都市計画課長	森	本	秀	利
下水道部企業経営課長	江	本	晴	己
下水道部下水道課長	小	谷	雅	信
下水道部下水道加入促進課長	喜	田	展	弘
次長兼農業委員会事務局長	竹	内	秀	次
国民宿舎支配人	北	川	満	夫

Ⅱ. 会議に付した事件

- 1. 所管事務調査について…………… 4
 - (1) 産業振興の推進について
 - (2) 農業振興の推進について
 - (3) 都市整備事業の推進について
 - (4) 下水道事業の推進について
 - (5) 農業委員会に関すること
- 2. その他…………… 38

Ⅲ. 会議録

産業建設常任委員会

平成24年 2月21日(火)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前11時55分)

○砂田杲洋委員長 おはようございます。各委員の方々には御苦労さんでございます。また、執行部、きょうは市長、珍しいな、御苦労さんでございます。よろしくお願ひします。

きょうは別にこれとって特定の議題はございませんが、所管事務所調査について1番から5番、また、そのほかのことはその他でやりますが、1番から5番について何か御意見なり質問なりありましたら。執行部、何か事前にありますか。どうぞ。

市長。

○市長(中田勝久) 皆さんおはようございます。きょうは産業建設常任委員会の所管の事務調査ということで御苦労さんでございます。まだまだ寒い日もあろうかと思いますが、日一日と春は近づいております。

実は、先般も近畿の港湾の津波対策協議会というのがございまして、近畿の関係する各市町、また企業等の代表者の会でございますが、その中でいろいろと国交省が主に進められている会でございます。私も自治体の1つとしてできるだけ参加をということで行ってきました。特に今一番課題となっている国の中央防災会議、河田先生もアドバイザーで参画してくれてまして、そのときのお話では、どこの自治体もまだ関係するところも早く中央防災会議の見解、そういうものを出してほしいという要望なり、また一方では、十分検証した中で出してほしいということがあるようですが、河田先生もその中の委員であるようでして、お話では、早ければ3月の末から4月くらいに国としても中央防災会議の指針なりを取りまとめたいということで取り組んでいるようでございます。まだ確定的ではないんですが、かなりの資料なり数字を把握していかないけないということではありますが、確かに私も果たして今想定外という言葉は使われないと言っているが、そういうような数字がどこまで把握できるのかなということでも少し私も発言もさせていただいたんですが、初めは何か夏前とか秋とか言っておりましたが、かなり前倒しになるようでございます。そういう状況でございますので、できるだけそういう情報を早く収集して新年度で可能な限り。レベル1、レベル2というのがありまして、レベル1は100年から100年見当で発生する数値、レベル2というのが1000年単位でという数値ということで、被害の想定されることは分けるようでございます。今南あわじ市もそれぞれの地域でレベル1、レベル2が設定は県のほうでは暫定でされておりますが、そういうようなお話を聞きました。

また、もう既に皆さん方新聞でごらんのとおり、本四高速の料金設定がかなり見直され

ることが決定されたようです。ごく簡単なペーパーが来ておりますが、まだ各都市の高速の支援についての2年間の支援をということで、これも了解ができたようでございますので、ぜひ私どもの地域としても高速代の見直しをしていただく、2年後になるようでございますが、していただくということに期待いたしたいと思っております。当面ちょっとおつながりすることを申し上げました。

それから世界遺産も、これも私も申し上げており夢の夢でございます、新年度にも少し予算を置かせていただくようにしております。3月20日に福良でフォーラムということで、たまたまある人の紹介でユネスコの世界遺産の審査会の議長をされていた松浦晃一郎さんという方に昨年お会いすることができまして、非常に心配しておりました橋が、構築物ができることによって旧南淡町でも挑戦したときに、あれがあることによって非常に難しいというような話が出たということも私も伺っておりましたが、松浦先生の話では、特にそういうような大きな障害の1つにはならないだろうと、ただいかにあの鳴門海峡の渦のメカニズムが世界でもその裏づけなり、またほかの渦を巻いている場所との違い、これを解明するというんですか、科学的に。そういうところをどこまで強調できるかが今後の大きな取り組みであるということで、3月20日に先生も来ていただけます。また、関係する鳴門市も大変積極的に取り組んでいこうということなので、今後一気にはいきませんが、私ども市としても、また議員の先生方の御意見、御協力を得ながら一步一步進めていきたいなというふうに思っております。以上です。

○砂田泉洋委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 市長にちょっとお聞きしたいんで、よろしいですか。二、三。

○砂田泉洋委員長 阿部委員どうぞ。

○阿部計一委員 県道、今も警察の前と本庁の前に看板が上がってますわね。これは皆こういうことを言うのはタブー化されとったんか知らん、議員で発言したことはないんですけども、余りにも実名で本庁舎の前、警察の前に堂々と掲げておると。これは私ども議会として、議員としてそういうことがあるのに何もよう言わんのかと。市はどのような取り組みをされているのかということも非常に耳に入ってきました。そういうようなことで、市としてあの問題についてどのような対策を講じておられるのか、その点1点、努力されておるのか、その点お聞きしたいと思っております。

○砂田泉洋委員長 市長。

○市長（中田勝久） 私、全部を把握しておりませんが、以前からあちらのほうのバイパスのところにそういう看板が出かけたときに、市としても撤去の要望というんですか相手方の人にしたり、また顧問弁護士、また警察等にもいろいろ相談をしました。しかし、なかなかそれを強制して罰則するというようなことは不可能であるということで、その後も御本人と私どもの旧南淡の今部長になっている人が接触していろいろ協議の結果、撤去するという署名までいただいてしたんですが、結果的にはそのままになっているという状況です。最近、今議員が言われたとおり、庁舎の前に2枚の看板が出ております。これも何とか早く相手方の人と協議して撤去していただけるようにということで努力はいたしておりますが、まだ具体的にはどこまでどうというのは報告できませんが、そういう努力はいたしております。できるだけ早いうちに何とかそういう対応をしていきたい、こんな思いでございます。

○砂田杲洋委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 市もそういうように努力されているということ、それはよく理解できました。何せ観光のまち、市のイメージダウンにもつながりますしね。県道のほうにあるのは早くから知ってましたけども、まさか中央庁舎とか警察の真横にああいう看板が出るというのはかなりイメージダウンにもつながるんで、続けてできるだけ早い時期に撤去していただくように努力していただけたらとお願いしまして終わります。

○砂田杲洋委員長 それでは、所管事務調査についてですが、1番から5番を一括して議題としたいと思います。何かあれば質問。

中村委員。

○中村三千雄委員 民主党政権になって今までの1つの政策等々変わりました、地方にもおいてくるような事業等々があり、以前の政権から継続でやっておりました事業等々もいろいろの変化があらわれてきておると思うんですけども、特に農業問題についての圃場整備についての現況、現況がどのような形になっておるのかというのと同時に、今まで地域の要望等々が上がってきております計画等々についての見通しについてお答え願いたいと思います。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 土地改良事業につきましては以前から御説明もしておりますように、国のほうで農山漁村地域整備交付金というふうな形の交付金制度になりました。

て、ことしからまた一括交付金ということで、ほかの事業と一体的な交付金の中で配分を受けるといふような形になっております。そんな中で、これまで合併以降、圃場整備を推進してきましたけども、今のところはほぼこちらの要望どおりに、当初予算ではなかなかつかないんですが、繰越予算であるとかいうのを活用しまして実施できているのかなというふうに思っております。

将来の見込みにつきましては、当面の平成24年度につきましては、大体国の予算ベースで94%、これは圃場整備だけではございませんけども、ほかの農水関係すべて含めまして94%の予算が要望されているということでございます。そのうちに幾ら、どんな割合で県のほうへ配分があって、市のほうへ配分があるかということにつきましては、ちょっといまだ未定でございます。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 現在進捗しておる区域というのは何カ所あるわけですか。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 現在、県営で面工事が進んでおりますのが、御陵Ⅰ期、阿万本庄、湊里、新田は実施設計の段階ですけども、以上4カ所でございます。あと調査設計につきましては国衙地区で進行しております。以上です。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 今のお聞きしますと、補助ペースで約94%、それはいろいろ事業があると思うんですけども、継続して一応予定どおりの年度において完成できるということになるんで、少しそれによっておくれるというような形の今執行しておるものについては、その見通しはどうなってるんですか。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 総体的に申しますと、国のほうでは防災事業というのが最優先課題ということで、特に優先して予算づけをされているというふうな状況でございます。そういうことで基盤整備につきましては、なかなかよその市とか県では、既に大分整備率も上がりまして、実施地区が減ってきたという中で、私どものほうには特に優先的に予算づけをいただいているということでございます。ただ、少し計画よりは延びる見込

みかなというふうには思っております。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 それでは今計画実施されておる地域が完成した時点では、圃場整備率何%、今計画されておるものがすべてできたら整備率何%になる予測をしますか。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 私どもの計算では、現在事業採択をしたものが完成すれば約51%の整備率になるかと思えます。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 それは今実施と、計画を上げているものもできてですか。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） 昨年末で45.6%という整備率でございまして、今計画の中を含めると51%程度になるということです。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 先ほど言われましたように、県下の整備率、特に淡路はいろんな事情でおくれておるわけですが、全体的には70ないし、県下ではかなり上がってきていると思うんですけども、全体では、それをやってもなおかつ半分だというようなことで、農業立町と言われながら農業振興の中で、やはり基幹の圃場整備をすることが農業の大きな基礎をつくるのであるというような思いから、これは引き続いて計画をあと49%、約半分ですね、その地域についても今からそういうようなことをして圃場整備率100%を目指すんだというような気持ちで進めていただきたいと思いますと思うんですけども、それについてどう思いますか。

○砂田杲洋委員長 農地整備課長。

○農地整備課長（大瀬 久） まだ正式には実現しておりませんが、協議中の所が

2カ所ございます。まだ、ほかの特に低地帯も含めまして、私ども積極的に推進してまいりたいというふうに思っております。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 冒頭に言いましたように、本当に農業の基幹のこういうような狭い農地で耕作することについては、将来に向けていろいろ何としても基盤整備は第一だと思いますので、おくらしているもの何とかそういうようなことで、それ以外の地域についてもひとつ啓蒙していただいて、その方向に持って行っていただきたいということをまず要望しておきたいと思います。一応終わります。

○砂田杲洋委員長 ほかに何かございませんか。
谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 ちょっと観光振興についてお尋ねいたします。まず一番最初に松原荘の高速充電器のあれはもう完成されたんですか。

○砂田杲洋委員長 慶野松原荘支配人。

○国民宿舎支配人（北川満夫） 今入札が終わったところでございまして、今ちょうど工事にかかっています。工事自体は品物が絶対ありますんで、品物が到着次第その設置工事にかかるかと、そういうことです。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 今後の市内への高速充電施設の整備についての計画はございますか。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 補助事業については今のところございません。もう一つは、急速充電器、非常に高価なものと、例えば時間をかけて充電できるような安価なもの両方あります。今後それらを比較しながら検討を進めていきたいと考えております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 検討を進めるのはええねんけども、今後の設置の計画はありますかということで、検討でなしに観光振興にそういうような計画はあるのかという質問よ。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 補助事業とか、そういうのは今のところございません。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 地域振興対策として私がお願いしたいのは、きのうのテレビでも見ておったら、私も前にも行った海士町にしたって亀山にしたってIT産業呼んだりしながら地域の振興対策的なものをしているわけや。産業振興とかやはり観光の振興のためには、そういう施策を私もこういうふうに言っているわけよ。あなた方もどうしたら南あわじ市の観光振興ができるかという、どういう将来の観光振興ビジョンとか、どういう計画で市内の観光の振興に寄与するような施策を打っていくのか。あなた方公務員は一生身分保障されて、こうして来ているような状況下にあるねんけど、やっぱり地域の振興の対策的なものは、あなた方行政のプロやから、その辺の施策展開を一々トップからの指示がなかったらせんとかやな、私らも議会で言っているわけです。やはり観光客おもてなしというようなことで、今から将来を見据えたら、そういう電気自動車が普及してくると、そのときに市内に来た人の利便性とか、来るぐらいのことを計画してやっていただきたいという思いがあって、あえて何回も言いよんねんけど、その辺の観光振興ビジョン的なものを産業振興部、どのようにお考えなのかお尋ねいたします。どういう施策を今から市内の観光振興をしようというような、あなた方は行政のプロですから、どない考えとんのよ。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 直接的には観光客をふやす事業、また、今おっしゃっているように今後予想して、それを売り物にしてというような形の中で行く、両輪になってこようとは考えております。その中で、先ほど言いました急速充電器の必要性か、今言う時間をかけて宿泊客が宿泊中に充電できるとか、時間をかけている間にできるとかいうやり方もあろうと思いますので、そういうものは、どちらのほう効率的なもの、両方とも併用する必要もあろうかとは思いますが、そんなのは進めていきたいとは考えています。ただ当然多額な経費もかかりますので補助事業なりもあわせながら進めてはいきたいとは

考えております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 質問の答えと違うねんけども、要は、私は何を言いたいかと言うたら、県のほうの淡路島地域ビジョンでも、島を丸ごと公園というような観光客をお迎えしようというような計画というかビジョンを出しているわけです。そういう状況下にあつて、あなた方も御存じやと思うんやけど、西淡インター出たところのトイレを県のほうが閉めるというようなことに対して、あなた方はどういうふうな動きをしてくれよるか、それをまずお尋ねします。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 観光としてもあそこのトイレは閉められているということで非常に困っております。ただ、それに対して現在どういう手を打っているかということでは、ちょっと今手は打っておりません。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 私は先般、あなたに観光として何かあなた動きよるのかと言うたら、何も指示を受けてませんと私に言うたんや。だから、私はちょっと腹が立ったわけよ。観光としてあなた方は、そういうふうなトイレの閉鎖に関して何か県のほうに動いてくれているのかと言うたら、何も指示を受けてませんと言うたから、もうええわと。実際の話、どない考えとんのよという話をしよるわけや。あなた方、一々市長なりからの指示がなかったら動けないんやというのは、行政のプロなんやから、県のほう、将来の南あわじの観光がこっちに動きよるといったら、それに事前に行政のプロがそれなりの施策展開をしていかなかったら、一々市長からの指示がなかったから動けないと、そんな話はないと私は思うんよ。あの辺が閉められるということは、南あわじ市の観光に対しては大きなダメージやで。その辺の認識はあなたはあるのはあるんやね。その辺、そういう認識があるのかないのかお尋ねします。

○砂田杲洋委員長 部長、谷口委員の質問の意味をもっと理解してもらわなかったら。観光立島淡路島よ、それに積極的にかかわる気はないのかということ。指示がなかったら動かないのかというのを言われているので、そこら。

産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 当然、今おっしゃっている観光に対して絶対トイレとしては必要やとは考えております。今まで淡路各地区に県のほうから花トイレという制度があって非常に観光客にも喜ばれていたとは思いますが。恐らくそういうのが今後観光客、観光を重視していく上では絶対必要なものやとは考えております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 必要やと思うんやと感じたら、何らかの働きかけをせんかいや。今行政というのは、地方で自治体が官民競争していて、地域の振興というやつを自治体のあなた方が英知を絞って市民の収益とか所得向上のために知恵を出すのがあなた方や。その税収で、それなりのいろいろな施策展開ができるわけや。それに対して、そういう必要性を感じているんやったら、あなた方が何かアクション起こしてやるべきやと私は思うんけど、それを何も指示がないからやってませんと先般あなた私に言いました。一々我々議会に出るやつは、我々議員のことは全く無視して一つも動きよらへんという話やぞ。その辺をもっと積極的に今後やっていきますぐらい。こういうことを部長、その能力を買われてその役職についているのだろ。やる気というか、今後のほんまの観光振興をどないしよう、市内の観光施設の入り込みふやす施策を展開するのか、あなたの考えでいいから言うて。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 実際、今おっしゃっている観光全体の振興につきましては、当然各施設、またその業者さんなりいろんな人との協力の中で観光客の誘致に努めていかないかんとは思っています。今おっしゃっている中で、そのいろんなハード整備であったり、ソフトの整備であったりするのは、それぞれ皆で協力しながら進めていくべきものとは考えております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 もう1つ前にも質問したあれやけど、マーケティング戦略室あるわな。あそこで地場産業のかわらのこと、南あわじの基幹産業であるかわらを発信してやろうというような思いがありますわな。兵庫県下でこの間も言うたように、3割しかシェアないと、その辺マーケティングでかわらの戦略、販路拡大の戦略をしとって事業評価、あなたの評価はどういうふうな評価ですか。マーケティング戦略室、そういうような施策

のスタッフを置いて、これが事業効果が上がっているという認識なのか、いやいや、あのようになっているけれど全然反対に衰退していきよるといような認識なのか、どっちなんよ。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） マーケティング室のかわらにつきましては、今かわら工業組合さんなりと一緒に販売促進には努めております。行ってすぐに効果が即上がるものとは思ってませんが、徐々にその効果なりは上がってくるものと期待しております。特に今までは割と凍るとか凍ての問題とかいろいろの負の遺産の部分も淡路がわらにはございまして、さっきおっしゃっております兵庫県でも北のほうではなかなか使っていただけないと。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 マーケティング戦略室のかわらが事業効果があるという認識なのかないという認識なのか、どっちなんやね。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 今、徐々にその効果は上がっていると考えております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 効果が上がっているんやったら、かわら業界のほうの認識と部長の認識が全然違うなという思いがある。どんどんここを切るねん。販路が兵庫県下でも30%ぐらいのシェアしかなくなってきたと、販売枚数も減少傾向にあるというのとあなたの認識とは全然ずれているというのを認識新たに変えてほしいねんよ。部長、それと、そういうためにあずまやをやっていただいて、もういよいよ着手してくれると思うねんけども、ああいうことを西淡インター出たところだけしかああしてかわらの広告というかPRするようなあずまやの計画は、あれ以外にはないんですか。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） あずまやの分については、今のところあの計画だけです。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 その辺が一々指示がなかったら、マーケティングというのはあるのか。どんどん淡路がわらのそういうふうなやつを観光客の目に触れるような場所に私は前々から、そういういろんな海水浴場に設置して行ってほしいという要望しよるわけよ。これに対して、私の言いよることにはあなたは馬耳東風でないけれども、一つも施策に今年度予算でも要求して、例えば阿万海水浴場にやってますという答弁をもらったら私はありがたいねんけども、何遍口酸っぱく言ったところで、いやもうそれで終わりです。片一方は、閉められるといたって指示を聞いてないので動かない。地場産業のかわら基幹やさかい大事や言うてマーケティング戦略室こしらえて、観光客の目に触れるような予算要求でもしてくれているんやったら何にもこんなこと言わへんねんけども、マーケティング戦略室でかわらの販路拡大とってポストはあったって、こいつらは仕事何してんのよ。よそに出かけていくのも肝心やけども、まず自分の足元を固めていかなんだら。部長、ほんまもうちょっと頑張ってくれよ。市民は今泣きよんねんで。あなたは身分保障されて、よほどのことをせん限りは公務員は身分保障されている。せやけど今民間は一生懸命努力しながら競争で勝っていかないかんなんと思って、淡路島、これええとこや。これを行政ももっと観光にしたって、便所が閉められたんは僕は聞いてないし動けません。かわらはこのそこに立つ。こんなんであなたほんま行政のプロとしての自覚に私は欠けると思うんで、一たんこれで終わるけども、何ぼ言ったところであなた言うこと聞いてくれへんさかいに、どないもしゃあない、これ。私は一個人の考えを言いよんのと違うぞ、実際の話。かわらの便所やったら閉めらるやと言ったら、あんなどこ利用しよんのは観光客や。帰りしなにあそこでトイレ休憩して、車内のごみをばいとほって行きよるわけじゃ。あの辺の重要性というのはほんまに理解してくれよ。観光施設と言うて便所かんぬき閉めたようなとこへ来て、観光に対して振興対策ととるなんて言われへんぞ。もっと努力していただきたいということ。一たんこれで終わります。

○砂田杲洋委員長 答弁は。

要りませんか。

出田委員。

○出田裕重委員 谷口委員の質疑を聞きながら、大体はよくわかるんですけども、僕の感覚でちょっとお聞きしていきたいんですけども、まず産業振興部長に限った話ではないですけども、やっぱり出だしの時点で、そういう民間の人たちとの行政用語で言えば協働ですよ、一番最初ゼロから始まるときの出だしが僕は肝心やと思うんですよ。だから、

こないして兵庫県が便所を閉められたりとか、運営のことを考えないままばんばんつくって、今閉めていっているところですね。最初が肝心やと思うんです。

そこで農業振興部長に聞きたいんですが、産直です。ゼロから今スタートしていると思うんですけども、行政主導でほんまに最後までやってしまうのか。そういう産直にこれからかかわっていく業界の方々、隅々まで案内してというのは難しいと思いますけども、やっぱりまずはやる気のある方々と協議をされていると、農協も含めて協議をされているというような状況であると思うんですけども、まず現状を聞かせていただけますか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 現状につきましては今まで説明してきましたように、今JAさんであったり漁協さんであったり、各種団体と、そこらの中での調整事項を諮っているというような状況です。これから新年度につきましては、一步踏み込んだ中で、実際マスタープラン計画をつくる中で、当然、我々のノウハウだけでは無理やということを思っております。当然、民間の中の活力というような形で民間の業者さんであったり、そういう方々も参画していただきまして、自分たちと一緒に計画に参画していただきたいなというふうに考えております。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 僕あんまりまだ調査もできていないですし、情報もあんまりないんですけど、何か今の感覚ではちょっと行政が先に動いていて、言葉悪く言えば行政主導過ぎるような僕は感覚を持っているんですけど、どないですか、その辺は。何か民間がおくれているなど、意識がですよ。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 民間がおくれているとかいうそういうことではないと思います。この淡路にとって食べ物、魚にしたって農作物にしたって、食の宝庫であるという考え方があります。その中で、民間が先か行政が先かではなしに、だれかがやらなあかんという考え方を持っています。その中で我々として計画もしているという中で、当然これからは一緒に火をつけたんですんで、これから一緒に力を出し合ってやっていきたいというような考え方です。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 皆さんも多分行かれたことあると思うんですけども、この間、敦賀市のさかな街という大きい建物ありますよね。その人にちょっと関係者じゃなかったですけど聞いたんですけど、あれは完全民間ですけども、あれをつくることによって、路地裏の魚屋さんとか八百屋さんが、八百屋さんじゃないですね、昆布屋さんとかが皆移転して、はっきり言ってもう商店街がなくなったというような話も聞いているんですよ。それでよかったのかということ聞けば、それでよかったんやというちゃんと合意がとれてああいう大きな施設ができています。もちろん反対運動もあったと思いますけども。その辺を今一番大事な時期やと思うんです、この南あわじ市も。福良の小さな、言葉悪いですけども小さな魚屋さんもお客さんが来なくなる可能性だってあるので、そういうのを進めてしまうと。その辺をちゃんと合意形成とりながらできているのかなという心配があるんです。僕、反対ではないんですけど、やっぱりそういう方々もじゃそっちに移転してやろうやないかという人もおるし、そんなんされたら困るという人も並行しておる中で、どんなふうに話を進めていけているのかなという心配があるんですけど、その辺は大丈夫ですか。

○砂田泉洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 事業をしようと思ったらいろんな意見があると思います。自分たち、私の考えですけども、やはりビジネスチャンスというのがあるかと思えます。チャンス逃したら次にはなかなか来ないと、そこをどうとらまえて意見の合意を図っていくかということだと思っています。

○砂田泉洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 かなりしっかりした目つきで答弁されるんですけど、それは行政なんです。行政は行政で思いを持ってやっていただいているのはいいんですけど、やっぱり最後は、民間が一步前に出て行政が後から支援するという形にしていかなと、なかなか将来的に続けていくのが難しくなっていくと思いますんで、やっぱりその辺を特に僕は心配しているし、ぜひ気をつけていただきたい。この奥野部長のやる気はすごくうれしいし、頼もしいんですけどあんまり出過ぎると、もう奥野部長がおらんようになったら次ほんなら、またこれしぼんでしもたらどないもしゃない話なんで、やっぱりその辺をちゃんとやっていっていただきたいなと思います。ということで農業振興部の次長、どない思いますか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治） 食の拠点については、部長ともよく話しておるんですけども、成功事例を見ますと、民間で目の色変えて取り組んでいる。これ軌道に乗らなかつたら死活問題やという思いで民間の方々が真剣に取り組んでいるところが今経営がうまくいっている。だからそういう人たちをいかに集めるか、ここが一番肝心やなということで部長と常に話をしている状況でございます。できるだけ民間の活力を生かして、民間主導型でこの施設を順調に生かしたいなという思いは、部長と同じ思いを持っております。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 課長、どうですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 直販所につきましては、今、部長、次長もお答えしたとおり、現実論でいきますと、計画をつくる時も視察に行ったところからは今委員さんの御指摘のとおり、民間が前に出ないと行政のノウハウではとても経営的なところは乗り切れないんじゃないかというような御意見も出ておまして、そのことにつきましては、今のワーキングチームの皆さんは認識は同じと考えております。ただ、もともと淡路島にそういう大型の直販所がないというようなお話で、それぞれの業界の方から、要するに魚を食べるとことか淡路島の野菜、花そういう特産品がそろそろころがあればなというような御意見をいただいたところからも出発しておりますので、ある意味では民間の御意見を行政のほうでまとめさせていただくような形で今運営していると認識しております。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 もうこれでやめますけど、まだ話何も決まってないと思いますけど、出資形態とか、行政が100%やるわけじゃないですよ、その辺の考え方、ざっとでいいので、今のイメージ聞かせてください。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 先ほどから出ていますように、民間ということをまず入

れています。その中で、自分たちの中では補助金の交付金のもらえるようなやつはもらっていかうという考え方で進めておるといことで、まだ、じゃあかうい事業でかういようなこともまだ決まてないと。いのは、まだかうい規模、規模的にはよそに負けないかうい規模つくりたいいことしか言ておりません。実際じゃどんなものが来るかういのはまだ決定してないと、この新年度において計画を詰めていくかういようなことでございますので、そこら程度でございます。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 もう1点だけ。産業振興部長、一緒に絡んでやてるんですか。何か別に聞こえるんですけど。

○砂田杲洋委員長 産業振興部長。

○産業振興部長（水田泰善） 食の拠点づくりにつきましては、同時にうちも動いております。ただ、その中で、直接まだ今のところ計画いいうか、今会員の中で動いていきよる分だけで。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 当然、水産いいうのは我々の担当部ではございません。ですから、きっちり水産も入てやておるといことで、お互い手を取てやております。

○砂田杲洋委員長 出田委員。

○出田裕重委員 何か1つの計画の中でも縦割りなんです。何か1つのチームつくてやているイメージが欲しかったんですけど。水産はこっちで農産はこっちで。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） ですからワーキングの中では一緒にやてますよいいうちょっと説明悪かったんですけれども、ワーキングの中では当然水産も入てますんで、担当課も来ていただていますしいいうことでやております。

○砂田杲洋委員長 ほかに何かありませんか。
谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 関連で、私は大々賛成なんや。結局、何もせんというのが一番今のこの自治体競争の中で負けていくと。隠岐の海士町も見てたら、行政がしんとって三セクでC A Sとかいうことで新たな新規 I ターンでどんどんやっている。行政も民間、民間と言うけど、民間それだけの今もう体力がないと思う。せやから、やっぱり行政主導で、三セクで私はやるべきやと。ある程度民間のそういうような経営をしっかりとしながらやっていただきたいと。私は、部長、全面的に支援するさかいに、全面的にやっていただきたいと。これを逃したら南あわじ市の農業、第 1 次産業の振興は私はないと思っている。それぐらいの思いがあって、どんどん隠岐の海士のようにネットでどんどん部長、トップセールスしてもらって、淡路島のこの豊かな食材を阪神間なり東京の築地にでもどんどん付加価値つけて高値で販売して、1 次産業の方々の所得向上を推進していただくと。大きな期待を持っているさかいに、決してひるむことなく、全面的に支援しますのでやってください。終わります。答弁要りません。

○砂田杲洋委員長 ほかに何か。
印部委員。

○印部久信委員 きょうの神戸新聞によりますと、いよいよ T P P の事前協議がアメリカとオーストラリアとの間で始まるということなんですが、協議に入る前の事前協議ですので実質協議はともかくといたしまして、今、市のほうでこれに関しての情報何か持っていますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 県、国から正式に T P P の事前協議に関する資料等説明会はございません。農林のほうでもマスコミ等の資料を整理して把握するような現状でございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 恐らくきょうあすぐらいから事前協議に入るということで、その内容については、またそれぞれ新聞報道でも出てくると思うんですが、これは国に対しても、兵庫県としても T P P については反対であるというようなことも言っていますけども、こ

これはもう交渉次第であって、事前協議ですから本来の協議に入るか入らんかの協議ですんで、しばらく様子見ないと我々も何とも言えんと思うんですが、また市のほうで新たな情報等が入りましたら、お知らせ願いたいと、こういうふうに思います。

それと、兵庫県の24年度の予算で、ちょっと我々に関係あるものが何ぽかあったんでお聞きしたいんですが、まず淡路の乳牛の乳量を4万トン確保するための事業があるというようなことも聞いてます。今、兵庫県で大体10万トンの搾乳量で、淡路が4万トンということなんですが、この4万トンの乳量を維持するための予算とはどういう事業を考えているのか市のほうで把握していますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 2月17日に県の予算の記者発表がございまして、その中で淡路島の生乳生産量4万トン維持対策ということで、夏場の酪農におけます暑さ対策ということで、牛舎における送風機とか水飲み施設、また簡単な暑さ対策の改築等に対する補助を出そうというようなお話を確認しております。ただ、当然これは予算でございしますので、県会のほうの審議もございまして、詳しい要綱等につきましては予算の成立後、発表するような予定となっております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 仮にこれ県議会で予算が採決された場合、具体的にその事業はどのような流れで来るんですか、市経由酪農組合あるいは県から直に酪農組合、どのような流れで事業が行われるんですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 洲本農林のほうに確認しましたところ、内容等については今もお話したとおり、県会の議決を待つということなんですが、大体のたたき台については、3月上旬ごろに市のほうにお知らせをいただきます。通常、県の補助事業につきましては、県、市、要するに補助を受ける受益者の方のパターンと、県、市、酪農組合、要するに補助を受ける団体のパターンがございまして、恐らくでございますが、市を通じて補助の説明はするようになると思っております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 それともう1点、タマネギの生産の10万トン維持というこれも出て
いましたけれども、これは具体的にどんなことですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） タマネギ10万トン復活のお話でございますが、現在タ
マネギは大体8万トンを超える程度でございます。そういう中で、タマネギの作業につき
まして、去年結構収穫時期に圃場が雨のため緩かったと、それから御存じのとおりタマネ
ギの収穫については重量野菜ということで、非常に高齢化の進む中で厳しいというか農家
の負担になるというようなことがございまして、その収穫時期に農業用フォークリフトの
導入等によりまして作業を軽減しようと、そういうような事業でございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 これも乳量の4万トン維持と同じような形態になってくると思うんで
すが、それともう1点、農業後継者に対して年間150万か180万かの補助金を出して
やっていくという事業があると聞くんですが、今まで過去にもこれに準じた新規就農に対
しての補助金もあったかと思うんですが、これは過去の新規就農と今回農業後継者に対す
る補助金と違いがあるかどうか、2頭立てでいくんかどうか。また、今回の後継者の補
助に対してだけいくのか、この辺立て分け説明してもらって、この制度についてのちょっ
と説明をお願いしたい。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 新聞等で報道されております新規就農、制度の名前でい
きますと青年就農給付金、これにつきましては、今回新たに国のほうで設けられた制度で
ございます。これまでの制度につきましては、国の中では農の雇用事業、それから県では
新規就農離陸加速モデル推進事業、また、県では就農定着対策事業、それから新規就農イ
ンキュベーター事業、それから就農スタートアップ支援事業という制度になっております。
国の制度と県の制度があるんですが。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ですから、旧の新規就農を具体的に、年間たしか月に10万か12万
か、5年間ぐらいの補助制度ではなかったかと思うんですが、その辺具体的に数字上げて

何年ぐらい継続してやるんか、ちょっとそれを説明してくれますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） それでは旧というか今も制度は続いておりますが、農の雇用事業といいますのは、年間最大120万で最長2年間。就農に向けての研修をしていただく雇用主への助成となっております。

新規就農離陸加速モデル推進事業につきましては、これは兵庫県の就農支援センターのほうで行っている事業でございます。直接市のほうの事業でないんですが、事業の内容としましては、新規就農希望者を県の就農支援センターが雇用し、研修先の農家へ派遣するような事業でございます。

続きまして就農定着対策事業、これは市の予算にも計上させていただいております。県の補助に基づいて市が行う事業でございます。1年目は毎月15万、2年目が毎月10万円、3年目が毎月5万円の3年間で就農を支援する事業で、おおむね45歳以下の方でございます。

新規就農インキュベーター事業といいますのは、県が行う事業でございます。失業された方、労働の意思、能力を有し求職活動を行っているにもかかわらず職業につくことができない方を対象として行っております。

また就農スタートアップ支援事業につきましても、県のほうで行っております。これは非農家の出身の方が新規就農を目指す場合、県のほうで行う事業でございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 これの受給対象者というのは、南あわじ市で何人おりますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 市で行っております就農定着対策事業、先ほどの1年目15万のお話でございますが、23年度につきましては対象者はゼロでございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは、このたびの新たにできる農業後継者のこの制度に対しても、南あわじ市は制度の対象者というのはほとんどないわけですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 非常に説明不足で済みません。今説明させていただいたのは、県、市のこれまでの事業でございますので、今から委員の御質問の国の新しい制度について若干説明させていただきます。

青年就農給付金といいますのは、戸別所得補償の制度に基づきまして国のほうで要するに農家に就職する方が現在1万3,000人くらいで、そのうち定着率が非常に悪いと言ったら怒られますね、なかなか定着していただけてないので、国としては新規就農を年間2万人を目指そうということで、青年就農給付金制度を平成24年度からスタートさせよう。その中には、農業をしたいので農業を学ぼうという準備型と農業に直接就農、農業を始めるねんという経営開始型がございます。準備型というのは、そういう農業を学ぶ機関のところで最長2年間適切な研修を行っていただいて、その後、農業についていただくと、これにつきましては年間150万円。経営開始型というのは、独立自営就農時の年齢が原則45歳未満で独立自営就農であること等、詳しくはまた国のほうで決まるんですが、これは年間150万で最長5年間というような制度でございます。御質問のそしたら南あわじ市でどうですかというお話ですが、委員も御存じのとおり、県下で南あわじ市は大体生産ベースで3割から4割といきますと、大体今新年度のほうでは20人から30人ぐらいは対象になるかなということで予算を検討させていただいています。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 課長、この制度を大分PRもせんといかんと思うし、それと23年度の南あわじ市の新規就農者は何人おりました。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 今手元に資料はないんですが、大体新規就農といいますと、5名ぐらいが今相談に来ておりますが、ただ、新規就農というのは非農家の方で来ている方が5名くらいで、例えばIターンであったりUターンの方の資料についてはちょっと手元に今ございません。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 課長、こういう制度があるんですんで、やっぱり広く農家の人を知ってもらおうということがまず大事だと思うんで、市の広報で流す、農協とも連携しながら、

恐らく県の普及所も連携しながら、こういう制度を広くPRして知ってもらおうということも大事だと思いますので、その辺よろしく。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 国の行います青年就農給付金につきましては、当然受け取るのは個人でございますが、それぞれの地域というか地区で人・農地プランといたしまして、その地区の今後10年間の農業のマスタープランのようなものをつくっていただいて、その中で新規就農する方の位置づけをしていただくような制度でございます。御存じのとおり、間もなく24年産の米の転作の相談会を3月上旬から始めさせていただきますので、その中でこの制度につきましてもPRを行っていきたいと思っております。

○砂田杲洋委員長 暫時休憩いたします。再開は11時10分。

（休憩 午前11時00分）

（再開 午前11時10分）

○砂田杲洋委員長 それでは再開します。

何か質問ありませんか。

阿部委員。

○阿部計一委員 大学誘致について、議会報告会でも意見があったので、私のほうからこういう話をしなくても企業誘致課また市全体として動いていただいていると思うんですが、延岡へ行ったときも、延岡市長さんに副市長と北川課長も一緒やったと思うんですが、市長室でいろいろお話をお聞きして、そのときに経営者としては学校経営哲学を持っているし、そういう会社としての、企業としての財務状況もいいし、市の活性化に物すごいなっているという御意見でありましたけども、その中でもかなりいろいろな面で無理も言うてくるでというようなお話もありました。要は誘致を、これは議会も総論では全会一致ですけども、各論が出てきますといろいろな問題も出てくると思うんですが、要は延岡も市、行政、市全体が一丸となってチームワークを持って取り組んで、そういう状況になっておるということで、今回も南あわじ市が誘致をしたんですが、やはり全島で、南あわじ市はもちろんですけども、全島でそういう取り組む体制を私が言うまでもなく執行部はそういうことはやっていただいておりますと思うんですが、特に3市について、全島で学生の募集とかいろいろあるんで、そのような取り組みですか、ひとつ洲本、淡路市に協力要請

というようなことはやってると思うんですが、その点いかがでしょうか。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 今、学生の意向調査みたいなものを島内の高校にお願いしておりますので、そういうところあたりでは、各市にもお願いをしておりますが、具体的なものについては、まだまだこれから可能な限り支援をいただけるものならいただきたいということを思っておりますので、積極的に働きかけていきたいと思っております。

○砂田杲洋委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 そういう報告会での意見もありましたんで、私もそう思いますし、ひとつ各市に働きかけていただいて、できる限り協力いただけるように運動していただきたいなと思います。答弁結構です。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 阿部委員と同じ議会報告会でちょっと質問されたんですけども、三洋がパナソニックに吸収されて、今淡路の中の三洋の工場の現状が非常に悪いと、洲本工場閉鎖というようなうわさもある。そこで産業振興部としてそこらの情報をどの程度把握できているのかお聞きしたいんです。

○砂田杲洋委員長 企業誘致課長。

○企業誘致課長（北川真由美） 先生方御存じのように、三洋電機株式会社がパナソニックの子会社ということで、なかなか独自には動けないような状態になっております。現在パナソニック、親会社のほうが赤字決算ということで、三洋電機のほうもかなり影響を受けてまして、希望退職者を募っているようでございます。私どもが把握しておりますのは、三洋電機のほうで島内で90人ほどの希望退職者があったようでございます。

あと、今はリチウムイオン電池を中心にやっておったのが、そのリチウムイオン電池を加西工場、または中国のほうへかなり移動させておりまして、洲本工場のほうにおいても設備、機械等がそちらのほうに渡っているようでございます。それで現在少し工場がありますが、やっぱり企業ですので次なる計画があるようございます。その程度のことでございます。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 今、洲本工場がなくなる、また南淡エナジーも閉鎖すると、これはあくまでもうわさですけども、正確ではないんですけども、淡路の産業構造の中に三洋というのはかなりウエートを占めておる、そこで非常に淡路全体の中なんですけども、今後三洋の動きによって淡路の中の退職者というか失業者がかなり出てくるのか、そこから非常に危惧しておるんですけども、パナソニックになって三洋としての独自のリチウム電池、また加西、中国へ持っていくというふうな、会社経営の中での仕方ない方策であるんですけども、そこから非常に情報等をこの情報社会において常に情報をキャッチしていくというのは必要ではないかというふうにも思っております。そんな中で、企業誘致課として今現状どのような状況なのかお聞きしたいんですけど。

○砂田杲洋委員長 企業誘致課長。

○企業誘致課長（北川真由美） 三洋電機は、やはり淡路島にとりましては低迷されますとかなり経済効果がマイナスになっております。私どもも危惧するんですが、いろいろお聞きしてありましたところ、撤退するとか閉鎖するというようなことはないそうでございますので、一応安心はしておりますけれども、できるだけ海外とか、あと島外のほうへ引っ張られないように、淡路島全体で活発化していただきたいような誘致作業をとっていただければと思っております。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 かなり規模縮小はされるのかなというふうに僕らも思っておるんですけども、それはどこまでの規模縮小なのか、それによって大きく変わってくると思うんです。

これは別の話なんです。今ちょっと私、仕事の関係で阿南へよく行くんですよ。そこで今、日亜化学がすごいんですよ、日亜化学。それもね、川と川の中州に工場をつくりよんです。南海地震、津波なんて10何メートル来たらもう全くなくなるのを、そこへ数十億、100億近くかけて新設している。日亜化学は人も何ぼでも雇ってもらえるような、徳島の関係者であつたら言うんですよ。そういうふうな大きな企業、今風という企業が来てくれたら非常にうれしいんですけども、日亜化学さんは阿南だけと違うんですよ、北島のJT、日本たばこ産業の跡地にもつくっているし、ほかのところにもつくっているのかな、かなりすごいです。でも、このLEDというのは韓国もすごいです。韓国も国を挙げて世界競争の中に取り残されんように大統領がトップセールスするぐらいのことをやって

おる。また最大の脅威は中国なんです。中国は国策としてとらえて、そういう世界戦術にやっておるんです。日本なんてまあいけば日亜化学、一会社が自分らだけで世界競争の中で立ち向かっていっているような感じでも、それだけ工場を拡大していくという力があるのはすごいなというふうな思いがするんですけども、企業誘致課としても日亜化学さんとかそういうようなコネクションでもあればそう遠くないところですし、ひょっとすると右肩上がりの企業というのはそうざらにないと思うんです。またそこらひとつアタック、チャレンジしていただけたらありがたいなという思いがするんですけども、いかがでしょうか。

○砂田杲洋委員長 企業誘致課長。

○企業誘致課長（北川真由美） 実は昨年度ですが市長とともに日亜化学さんに訪問に行ってきました。社長さんにはお会いできなかったんですけど常務さんにお会いしましたところ、なかなか阿南市のほうもやはり市の産業ですので重要な産業ですので、そこからはなかなか離れたくないような意向もありますし、企業さんにとりましても現時点のところでは伸ばしていきたいというふうな意向のほうが強かったと思います。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 アタックしてくれたのはありがたいんです。ビジネスというのは1回こっきり違うんです。日々、日参に日参を重ねてそしてこそ1つのビジネス、これが1年や2年ではなかなか答えは出ないと思うんで、できる限り1つのコネクション、また、日亜化学さんは徳大が出身か何かで非常に徳大の中でも青色発光ダイオードとかそういうのをかなりしているみたいなんで、徳大関係者の方と知り合いがあれば非常に強いコネになるのかなという思いがするんで、またそこら一回考えて、この道、あの道、その道というようにいろいろな手法を講じてやっていけたら、またそういう点において少しの努力もお願いしたいなという思いでございます。

次にバイオマスの今の現状はどのようになっておるかお聞きしたいんですけども。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） バイオマスの現状で運営につきましては、1月末現在で処理量は2,079トン、前年は1,200トン程度でございますので、順調に今のところは稼働させていただいてます。ただ、先ほどもお話したとおり、去年のタマネギの収穫の時期に結構雨が多かったので、田んぼの泥というかそういう土が非常に多くて、施設の摩

耗とか修繕は結構ことしかかっております。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 僕が心配しよんのは炭化した炭、これは販売するというふうな当初計画だったんですけども、本当にこれ販売できるものか、また在庫がふえていきよるんか、そこらお聞きしたいんです。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 炭化の炭につきましても民間の販売所の協力と、あと農協の各支所等の販売をしております、炭化の施設自体につきましてもは順調に行っているかなと思っております。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 順調に行きよるということは、順調に販売されていっているというふうにとらえていいんですね。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 販売につきましては、要するに圃場等の利用よりも家庭菜園的な感じで、販売しているところに聞きますと、結構そういうところで個人買いみたいな感じでいってますということです。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 課長、年間2,078トンも処理しよるんやで。家庭菜園だけでそれだけの炭化したものが販売できるのかどうか、ちょっと僕は疑問に感じるんですけども、そこらどうなんですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 炭のほうにつきましては、現在袋数でいきますと、1月末で9,000袋程度の炭化でございます。トン数でいきますと41トンぐらいです。た

だ、処理量は二千何ぼなんですけど、ほとんどが水分なんで炭化するとき自体は固形物になりますので、そこら辺の率からいきますと9,000袋ぐらいかなと。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 9,000袋全部、家庭菜園、それから農協に持って行ってますけども、9,000袋全部完売できておるんですか、そこら。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 実際、過剰な分については、堆肥の水分調整剤というようなことで対応しているのが現状です。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 残ったら、わしら販売促進のために一回つくったら使ってもらえと前々からそういうふう言ってるんですよ。一回使って本当によかったら買ってもらえる。やっぱり何事も、魚釣るんでも撒き餌せな釣れへん。企業でもそう、商売何でもこの人、ええ紹介あるよ行ったよってよろしくお願ひしますと1つ頭下げたよってんで、そんなん絶対あり得へん。あつたとしても、その人のつき合いで1回こっきりで終わりよ。そんなん絶対あかん、そんなんであつたらビジネス、商いにならへん。余りもうけへんでも長く継続できていくようなことをとらないかんためには、ただでも使ってもらえというふうなことで僕は言っておるんで、はっきりとこうこうこうなんで、今販売促進のために使ってもらっておりますと言うてくれたら、それで僕らも納得するし、今後のバイオマス事業にも必ず必要なことなんで、その点どういうふうな、前も部長も使ってもらうんやというふうなこと言っていましたんで。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 現在使っていただいています、テストで。そしてアンケートを回収してどうであったかということもやっておるんです。しかし何が問題なんかということは軽いんです。軽いんで風が吹くと薬物の中に入っていくということがあって、ちょっと敬遠されてる。それ以外は、ええですよということ。実際ペレット状にしたらええやないかという案もありますけれども、そこまでする必要がどうかということもあるんでということで、今悩んでおるようなところでございます。

○砂田泉洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 今、堆肥にまぜてると言うじゃないですか、堆肥にまぜたらまぜただけの効果がほんまにあるのかどうかという部分もちょうと立証していかないと、それを立証できることによってまたその堆肥を使ってもらえると、現状の普通の堆肥とこれをまぜることによってどれだけの効果が上がるかとか、そういうようなことも立証していく必要もあると思うんで、そこらどうなんですか。

○砂田泉洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 堆肥についてはアンケートのみで、実際科学的な根拠とかいうのまではやってないんです。実際まぜてみてどうやということぐらいの判断材料しか今のところやっていないという。

○砂田泉洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 僕ら、農業やそんなん素人ですけども、株式会社HB101か、フローラという会社やったかな、あれ樹木からああいう活性剤をつくりよんねんな。それは確実にそれが非常に活性化になる。花でも何でも日もちする。そんな難しいこと言わんでも、ちょっとしたポットの中でも堆肥の中全くの違うやつというような少しの実験的なことでもやれるん違うかなと僕ら思うねんけど。

○砂田泉洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（奥野満也） 炭化物については試験場のほうできっちりしたデータをとっておるんです。ただ、堆肥のまぜた分はとってないと。現在廃液についても長野県の会社のほうにその廃液を発酵させて利用できないかというようなこともやっとなんですけど、そこらはまた検討していきたいと思っております。

○砂田泉洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 今、課長が答弁しよったように、年数がたつごとに機械の老朽化になってくるということは、採算性がどんどんランニングコストが高くなってきて合わんようになってくる。どないぞ合わすことをする努力は炭化か、今言う廃液を利用するか、捨

てよったものを付加価値をつけて収益を上げることによって、ランニングコストを下げていくというふうなことも1つの工夫として考えていかないかのじゃないかという僕は思っているんで、このバイオマス、本当に最初からずーっといろいろな問題もあった中で、やりよんねんから、やりよるんやったらいかに赤字を抑えるか、当然地場産業のことであるんでそこらじゅうほられたらぐあい悪いんで、赤字は構わんと思うけども、それをいかに圧縮していくかという努力、そこらを全くやってないと言ってないんやけども、そこらも長期展望として考えていってほしいなという思いでございます。終わるときです。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 新聞報道で三セク1,970万円支払うということが書いてあって、今ファームが農業公園に対して5億2,000万円の訴訟を起こして、今訴訟中にもかかわらず1,970万円を支払ったということなんですが、訴訟中に支払ったというのが非常に理解しにくいんです。5億2,000万円の支払いを求めた裁判中の中において1,970万円をまず払ったという、これがよくわからんのでまずこれの説明をお願いしたい。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） そのものについては、営業権利譲渡の話を進める去年の3月当初ぐらいからその話をファームといたしておりました。営業権利を譲渡するときには、いろいろの問題が出てきます。そのときにあったお金をどうするか、3月31日現在の棚卸し資産はどうするのか、そのときのお金はどうするのかということで、私どものほうからファームのほうに協定書をつくってそこらあたりのものについて処理したらどうかという提案をいたしましたら、向こうについてはそういうものに話にのってこずに、結果的には仮処分の申請を出してきたわけですし、その後もそれには対応してくれませんでした。ただ、裁判の中にも裁判提訴項目の中に入れてきておりました。12月1日だったと思うんですが、口頭弁論のときにこちらのほうから、向こうのほうは項目に入れてますのでこちらのほうはもうそういうことについては当然こちらのほうが支払うべきものなので、お支払いいたしますよという提案をいたしましたら、向こうのほうもそれはそうですね、結構ですということだったんで、双方合意したもののについての金銭を支払ったということでございます。中身でございますが、1,900万というような話ですが、そのときにファームがその会社の中に立てかえておったお金が1,100万ぐらいあったと思うんですが、それから在庫商品等々で650万ぐらい、そのほか結果的にはリースで品物を買っておりましたが、そのリース代を、結果4月から9月か10月分まではファームが立てかえていただいておったんで、そのリースの立てかえ代等々で1,900万円、これはもうこちら

のほうもそういうものについては争う必要も何もないわけなんで、早く支払っておかないと5%の金利もつくんで、こちらのほうから先ほど申しあげましたように口頭弁論の際に提案して、向こうが了解したものを約束どおりの期日で支払ったということでございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 去年の3月か4月かその辺まで覚えてないんですが、南あわじ市の行政土地の中にあるファームの施設は、あのとき1カ月以内にすべて撤去するよという話であったわけですね、すべて撤去すると。副市長は1カ月以内にあるものはすべて撤去するよということを言ってましたよね。結局今の新聞報道を見ますと、ゴーカートなどの遊具というのは、結局これは南あわじ市の行政土地の中にあるんでしょう。このゴーカートとかこういう施設は。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 裁判途中なんであんまり詳しくは申し上げたくないんですが、それにつきましては市のほうから撤去命令を出しております。3月31日で権利が切れるんで、4月30日までに全部おたくのものは撤去してくださいということで撤去命令を出しておりましたが、撤去せずに残っておりましたので、その話どこからお聞きになったかわかりませんが、非常に詳しく御存じなんでお答えはしときますが、私どもは、あるもんなら私どもは使わせていただきたいですよと、こういう条件で使わせていただきますので返事をくださいというお話でしたけども、返事はなかったんで我々としては、その間の使用料はお支払いしますんで使いますよという話をしておりましたので、私どもが使っておりました。ただ、向こうがこちらのほうの命令に従わず撤去してないわけなんで、命令に従わず撤去していない部分の期間については、市のほうは土地を貸しているわけですからその分の借料だけはいただきますよということで、向こう側ファームには請求いたしておりますが、私どもが残っておった遊具を、こちらのほうが営業上使わせていただいておりますんで、その分の使用料については当然こちらの分を支払わなければいけないわけなんで、それについては支払いをいたしました。その分でございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ちょっと副市長の説明おかしいな。1カ月以内に撤去せよというやつが撤去してくれなかったと。残っている施設を使うねんけれども、相手方の了解なしに契約なしに農業公園株式会社が使いよると。向こうの了解なしに使いよるということやね。

使うなら使うで賃貸料の契約がなかったらおかしいわけやな。行政土地にゴーカート等を置いてあると、それに対して今度は土地の利用料はもらってない。ただし、ゴーカートの施設は向こうの了解を得ないけれどもこっちが使いよったのでそれに見合う使用料は今度は払いよる。おかしい話ですね、それは。

○砂田泉洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） そういうものについては事前に、こちらのほうからの意向はお伝えして、撤去なき場合はこういうふういたしますよ、御返事がなければ使いますよと、そういうことをきっちり弁護士から向こうのほうに伝えて使わせていただいております。土地の問題についてはこれはあくまでも市とファーム、遊具の使用については農業公園株式会社とファーム、この間でございますのでそこら混在しないように。

○砂田泉洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは、よその物をこちらから使わせてもらいますよ、通告しました。向こうはわかりました。そしたらこうこうこういう契約で使ってくださいというのが普通ですわね。こちらは撤去してくれてないから使いますよと弁護士を通じてファームに言って使っています。そんなんでええんですか。向こうもわかりました。そしたら契約はこうですよということで使うんが当たり前であって、1年間、これは1年足らずですけども、1年間1,970万円の支払いをほってあったわけですね。これもあくまでも新聞報道で違っていたら言うてほしいんですが、事前に購入していた飲食施設の食材や土産物店の商品、第三セクに変わって立てかえ払いをした債権など支払いを認めたということは、農業公園株式会社はファームが店舗に買ってあった食材、土産物を了解なしに今度は農業公園株式会社がこれを売りよったというふうにも解釈できるねんけども、相手と話し合えてきているなら在庫商品はこれだけです。ですからこれを払ってください、あとは商品は農業公園株式会社でいかなる販売をしてもらっても結構ですというのがあると思うんですが、この報道によると、もし間違っていたら言うてほしいんですが、向こうが買った商品、土産物を店舗に置いてあったやつを農業公園株式会社が向こうの了解を得ずして勝手に売ったとも解釈できる。だから違っていたら言うてください。

○砂田泉洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） そういうふうに解釈していただいても私の解釈でないんでそれで。ただ、結果的には裁判を起こしてきて、裁判の項目の中にそういうことを支払いなさ

いということを書いてあります。我々のほうは支払うべきものだと思っております。もう支払いました。結果的には、何ら向こうのほうから異議の申し立てはないんで、我々が口頭弁論で提案したものを向こうがきっちり受け入れをして、それについては支払いをしてくださいということでございますので、双方が納得したらそれでいいんじゃないかなと思うんですけど。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 そしたら、今後この食料品とか土産物は清算できたとしませんか。今ゴーカートとかこういう遊具は農業公園株式会社は使っているんでしょう。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） そういうものはもう全部撤去して、新たに私どものほうが設置いたしておりますので、もうそういうものはございません。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ゴーカートとか遊具の撤去はいつされたんですか。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 5月末までにしたと思います。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは4月の1日から5月末までのお金が1,970万ですか。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） いえいえ、先ほど言いましたでしょう、そういうもの立てかえ金が幾らでこうだったという話。遊具の話だけだと、この使用料については私どものほうから支払ったのは、16万幾ばくかと思います。その結果については、こちらのほうが認諾したものについて支払いしていただいて結構ですと、あとは裁判で決着つけましょうということですが、使用料については、こちらのほうはこれだけ支払いますよということ

は事前に通告いたしておりましたので、そのとおりにいたしました。ただ、ファームはそれでは不服だということと言われると思いますが、それについては裁判で決着をつけたらええやないかと、使用料について。ただ、それについてもこちらのほうがこれだけ支払いしますよというものは、もう向こうは受け取っておりますので、そのあたりのこちらのほうが使用料として支払うべきものだと、向こうは受け取るものだという双方の合意はできておりますので、その間の金額だけの話。我々は16万幾ばくかを主張いたしますけど、向こうはどれぐらいの使用料を要求してくるかわかりませんが、それはそのときに裁判で決着をつけたらいいんだろうというふうには私は思っています。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは、これは農業公園株式会社が独断で、恐らくこれぐらいの金額であろうということを手側のファームと協議して払ったんでなしに、いわゆる俗に言うこれぐらいであろうという押し払いですか。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） こちらのほうから、先ほども申し上げましたように、もう3月の時点から、こういうことでこういうふうになりますと考えられることについてはすべて協定書で協定を踏まえてやっていきませんかという話であったわけですが、4月1日以降もそれについては返事がございませんでしたので、返事がないということは私どもの主張を受け入れてくれるものというようなことを考えております。それで、そういうふうにはやっていきますということも通告した上でやっておりますので、何も無断とかそういうことではございません。向こうは、それに異論があれば使用禁止と、そういうようなこともあったのかもわかりませんが、今のところそういうことで、双方合意上のものについてはお支払いしたと、残りは損害賠償請求のものだけでございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 大体人の物を使うときには、大体普通こちらからこうですよ、向こうもわかりました、それではどうぞというのが普通の取引であって、市のほうからこうこうで使いますよと言うて、向こうが返事がないということは恐らくそれでいいんであるという、それはそういうええ解釈もええと思うんですが、通常世間の常識では考えられないことだと思います。

それと副市長、この農業公園株式会社というのは役員は1人ですか。

○砂田泉洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 取締役は4人です。

○砂田泉洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 取締役が4人ということは、こういうたぐいのことはすべて役員の協議の上で行っておるわけですね、当然。

○砂田泉洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 余り会社の中の話もしたくないんですが、そういうことは逐一協議をした上で対応いたしておりますし、裁判があれば報告いたしております。

○砂田泉洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 また役員会でそういう話もされてやっておるんなら、こちらもまた今後質問の仕方もありますんで、それはそれで、きょうは時間もないんで、このことについてはまた時間があるときにゆっくり聞かせてもらいます。

○砂田泉洋委員長 それでは副市長は退席しますが、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○砂田泉洋委員長 それでは結構です。

そのほかに何か質問。

印部委員。

○印部久信委員 前回言っておりましたサンライズの指定管理料250万円の残金、何万円か残っておって、そのときの質問において部長は払い戻ししてもらうように言ってきますということであったと思うのですが、そのことについて答えてくれます。

○砂田泉洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） ふれあい公園に関係した指定管理料でございますが、向こうから上がってきた計算額で約5万円ほど残っており、これにつきましては、その後支払いしていただくように求めています。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 前回の産建の委員会は2月の8日やったんかな、1月31日やな。1月31日の時点で要求しておりますでなしに、それはもう行ってもらってきますということであって、きょう20日もたってからそれは何を一体どんな手続をとっているんですか。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 会社の収支決算はまだ聞いておりますが、この指定管理料の部分だけは事前に聞いておりました。それで納付書を向こうの合同会社のほうへお渡しして支払っていただくよう伝えてございます。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 いつまでに。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 一応期限につきましては、年度内ということをお願いしております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 年度内、それでいいんですが、合同会社サンライズ淡路か、これは企業は存続しているんですね、ずっと。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 会社としては存続しております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは、3月末までに納付という期限をつけてあるんですから、それまで待たんと仕方がないということなんですが、それはその日が来るのを待たんといたし方ないと思うんですが、その後、2千数百万円の使用料のことについてサンライズ淡路の会社が破産申請をしているとかいうようなたぐいのことを聞いておるんですが、その後の経過はどういうふうになっておりますか。2,000万円余りの回収のめどはついてますか。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 前の指定管理者でありますサンマックスプロジェクトの会社でございますが、それにつきましては、1月4日付で神戸地方裁判所洲本支部のほうから破産手続の開始を行ったという通知が来ております。その時点で破産管財人を立てまして、今後はこの管財人が調査をして債権者に説明するというので、その説明につきましては、3月12日に債権者集会を行うという報告を聞いております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 その3月12日は当然市も債権者ですから市のほうにも来ていると思うんですが、その辺はどうです。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 市も債権者の一人であるということで、当然来ております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 これはもう今どうこうでなしに3月12日の後の経過を待たんことには、今ここで議論しても仕方がないんで、それはまた3月12日が済んだ時点でまた経過説明をしてください。終わります。

○砂田杲洋委員長 ほかに何か質問ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○砂田杲洋委員長 ないようでしたら、当委員会を閉会したいと思います、よろしい
 ですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○砂田杲洋委員長 御異議ございませんので、産業建設常任委員会はこれで閉会といた
 します。本日は御苦労さんでございました。

（閉会 午前11時55分）

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成24年2月21日

南あわじ市議会産業建設常任委員会

委員長 砂 田 杲 洋